

第2章 地域をとりまく現状と課題

1 府中市の概要

(1) 歴史

- 西暦 645 年、大化の改新により誕生した武蔵国の国府が置かれました。鎌倉時代末期は合戦の舞台となり、江戸時代には甲州街道の宿場町として栄え、明治以降は郡役所が置かれるなど、古くから政治、経済、文化の中心地としてにぎわいをみせてきました。
- 昭和 29 年 4 月、府中町、多磨村及び西府村の 1 町 2 村が合併し、人口約 5 万人の府中市が誕生しました。現在では 24 万人を擁する首都東京の近郊都市として、発展を続けています。

(2) 自然

- 多摩川や国の天然記念物である馬場大門けやき並木、浅間山等、豊かな自然に囲まれています。
- 大規模公園・緑地として、多磨霊園、府中の森公園、多摩川沿いの緑地等が集積しています。児童公園やスポットパークなど身近な公園の整備もすすみ、一人あたりの公園面積は東京都の平均を大きく上回っています。

(3) 市民生活

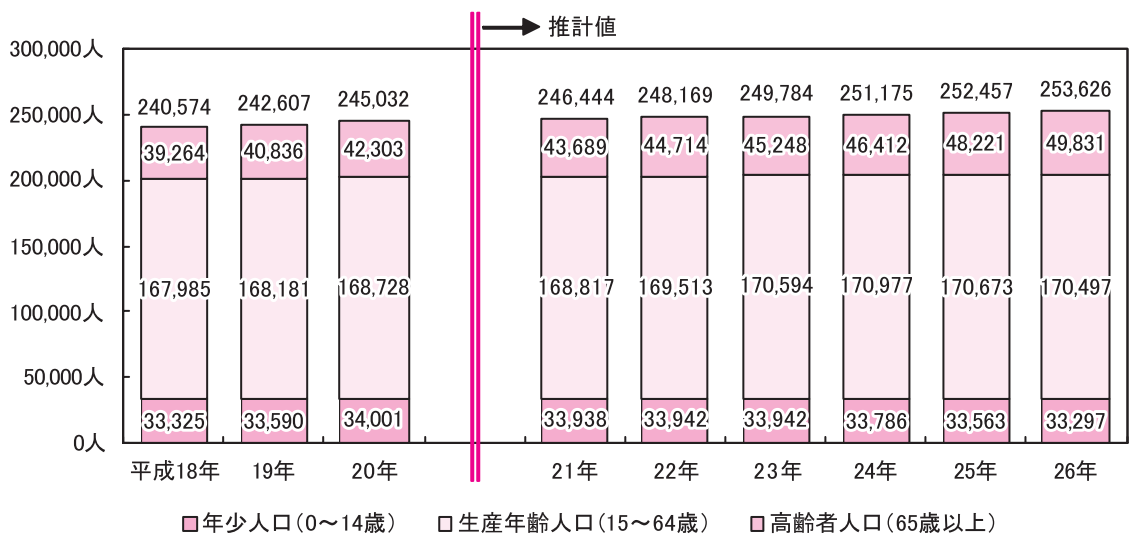
- 東京都のほぼ中央、新宿副都心の西方約 22 キロメートルに位置し、高速道路等の幹線道路や京王線・JR線・西武線が走り、交通至便な東京都郊外住宅地として発展してきました。
- 大國魂神社や地域の行事を中心とするさまざまな祭りが広く市民に親しまれており、伝統行事が市民生活に根づいているまちといえます。
- 夜間人口、昼間人口がほぼ同一で、市民の 4 割台が市内に通勤・通学している、職住近接の生活環境であることが特色の 1 つです。



(4) 人口・世帯の現状

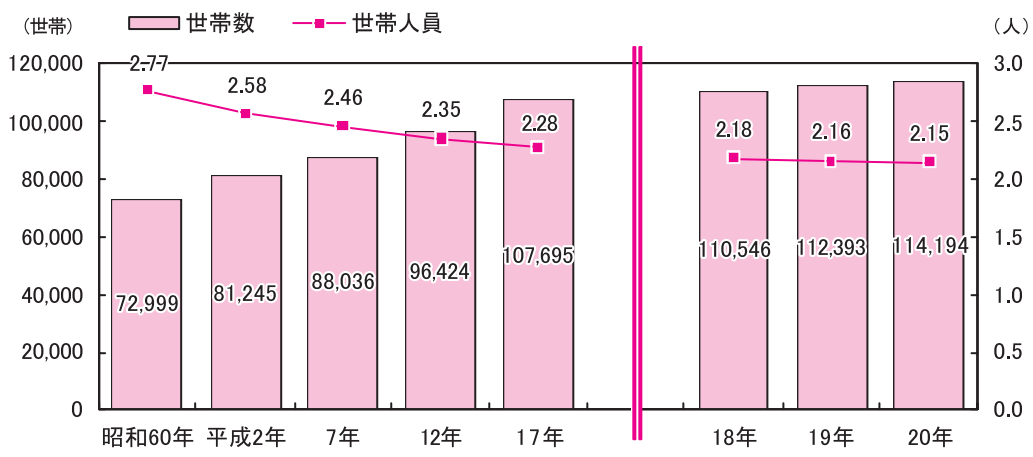
- 府中市の総人口は増加傾向にあり、平成 20 年 4 月 1 日現在、245,032 人です。今後も人口は緩やかに増加すると予測されています。(図 1)
- 世帯数は 114,194 世帯で増加傾向にある一方、一世帯あたりの人員は縮小傾向にあり、小世帯化がすすんでいます。(図 2)
- 府中市における外国人登録者数は年々増加し、平成 19 年には 4,199 人となっており、総人口に占める割合は 1.8%にのぼります。国籍別の内訳は、中国 (30.5%)、韓国及び朝鮮 (23.8%)、フィリピン (11.6%) の順となっています。

[図 1 人口の推移・推計]



資料：昭和 60 年から平成 20 年は住民基本台帳人口（4 月 1 日現在）、21 年以降は府中市推計による

[図 2 世帯数及び世帯人員の推移]



資料：昭和 60 年から平成 17 年は国勢調査、18 年以降は住民基本台帳人口